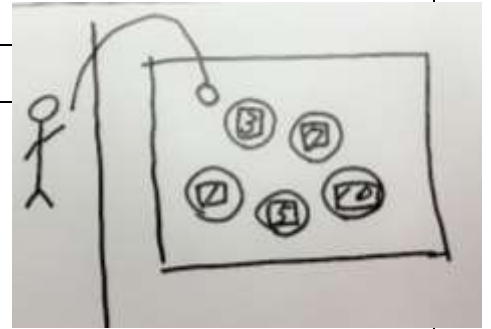


【1.視空間認知機能】空間の全体的なイメージを把握するための能力

①お手玉で点数ゲット！

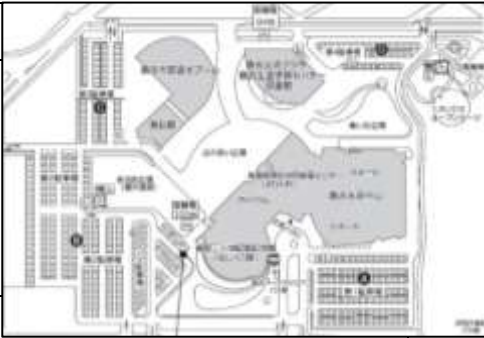
【必要物品】	お手玉、紙皿、紙、マジック
【実施人数】	2人～10人
【ルール】	1、紙皿に点数を書いた紙を入れる 2、紙皿（点数皿）を5枚ならべる 3、1人5個のお手玉を持ち、紙皿めがけて投げる 4、点数の合計を皆で計算する 5、点数の大きい人が勝ち※2回目は全ての皿に入れた人が勝ち
【実施時の注意点】	皿までの距離は、参加者に合わせる 元気な人同士の場合は、同距離にする
【おすすめポイント、アレンジ方法 等】	グループに分かれてする、立ってする場合と座ってする場合
【作業療法士からのコメント】	個人戦でもグループ対抗でも得点を競って実施できます。 紙皿の大きさや置く距離を変えたり、投げるものを変えたりすることで難易度も変えられます。何個かの紙皿を椅子の上に置くのも効果的です。

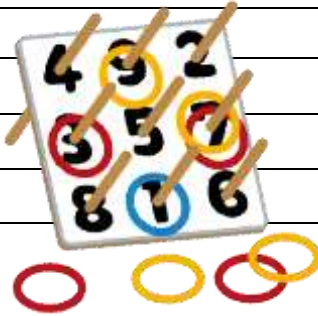


②都道府県名パズル

【必要物品】	画用紙、はさみ、マジック
【実施人数】	2人～20人
【ルール】	1、中国地方の場合：1県で4ピース作り、5県で20ピース作る 2、ジグソーパズルの要領でチーム戦 3、速さを競う
【実施時の注意点】	協力しながら、けがのない様に行う
【おすすめポイント、アレンジ方法 等】	4等分で簡単であれば、切り方を変える 他の地方の都道府県もする
【作業療法士からのコメント】	5県のピースを作るところから知的活動で取り組みます。 切り方を変えたり、4ピースを8ピースにすることで難易度も調整できます。 漢字を書いた用紙で4ピース作ったり、有名な観光名所の写真などを使っても応用できます。



③ココどこクイズ		
【必要物品】	カメラ、写真（JR 倉吉駅、未来中心、倉吉福祉センター、倉吉市役所、厚生病院、シティホテル、美術館など近隣の風景写真）、建物館内図（パンフレット）	
【実施人数】	2人～10人	
【ルール】	1、参加者を2チームに分ける（4～5人程度） 2、グループに建物の近隣の風景写真を見せて、そこがどこかを考えてもらう（ヒントあり） 3、制限時間を設け、時間内に多く正解したチームの勝ち	
【実施時の注意点】	まとめ役のリーダーを1人決めて進めていく	
【おすすめポイント、アレンジ方法 等】	どこかを当てる際に、色々考えて答えが出るように、写真をパズルにアレンジする	
【作業療法士からのコメント】	身近な建造物や風景、有名な名所等、いろいろ題材を使ってアレンジができます。普段の外出時、グループでの活動時、旅行の際などに建物のパンフレットなど各自素材を集めておくのもいいでしょう。	

④輪投げ		
【必要物品】	輪投げセット	
【実施人数】	2人～6人	
【ルール】	1、参加者を2チームに分ける 2、入れる目標を決め輪を投げる 3、得点の合計が多い方のチームの勝ち	
【実施時の注意点】	スタートラインを踏まない 人を責めない	
【おすすめポイント、アレンジ方法 等】	慣れるまでは、中央を狙いとにかく台に載せる 上手になれば、得点の高い四隅を狙うとよい 自分に合った投げ方を考えるとよい（縦投げ、横投げ等）	
【作業療法士からのコメント】	輪投げセットがなかったら、得点を付けたペットボトルを何本か床において輪を投げていくこともできます。距離や輪の大きさを変えたりすることで難易度も調整できます。 新聞で大きめの輪を作って、2人ペアで距離をあけて向きい、相手の腕に通していく「人間輪投げ」などもあります。	

⑤パズル「観光地当てクイズ」	
【必要物品】	4 種類の観光地パズル（A3 サイズの観光地の写真を段ボールに貼り、6 ピースにしたもの）をグループ分
【実施人数】	2 人～20 人
【ルール】	1、参加者をグループに分ける 2、4 種類の観光地パズルを各グループに配る 3、早くパズルを仕上げて、観光地を当てたグループの勝ち
【実施時の注意点】	観光地の正式名称を答える
【おすすめポイント、アレンジ方法 等】	パズルは有名観光地で作る
【作業療法士からのコメント】	写真を貼る、切るといった準備から知的活動で取り組みます。 6 ピース、8 ピースなど細かくしていくことで難易度も調整できます。 都道府県のイラスト、漢字などを印刷してパズルにしても同じように視空間認知の課題として取り組みます。